

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月25日

協議会名: 上里町地域公共交通活性化協議会  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社協同バス	中央ルート 北部ルート 南部ルート	<p>例年8月に実施している利用者アンケート調査を令和元年9月にダイヤ改定を実施したため、令和元年度分は令和2年3月に実施。また、令和2年度分は例年どおり令和2年8月に実施した。</p> <p>昨年度実施した、「上里町地域公共交通網形成計画」策定時に実施した町民アンケート及び利用者アンケート調査の結果を分析し、地域ニーズに合った持続可能な公共交通サービスの実現に向け、現状の業務期間後(令和3年4月以後)の運行形態について検討した。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B <p>※全ルート</p> <p>【目標】</p> <p>①利用者数 前年度比向上 前年度実績:54.9人/日</p> <p>②満足度 前年度比向上 前年度実績:11%</p> <p>(②は前年度と今年度では調査方法が異なる。前々年度は、今年度と同じ調査方法であり満足度76.8%)</p> <p>【実績】</p> <p>①利用者数 42.6人/日</p> <p>②満足度 R2.3実施 52.1% R2.8実施 84.4%</p> <p>①利用者数については、目標未達であったが、②満足度については、目標を達成することができた。</p>	<p>利用者数については、令和元年9月のダイヤ改定の定着がないまま、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者数が減少した。満足度については、昨年度から大きく上昇した。</p> <p>今後もアンケート調査を実施し、アンケート調査や利用者OD調査の結果から、1つ1つ改善事項に取組んでいく。</p> <p>令和2年3月には、上里町内の公共交通網の利便性を向上させ、持続可能な地域公共交通を実現させることを目的に「上里町地域公共交通網形成計画」を策定した。策定計画に基づき、定時定路線のあらゆる可能性を追求するため、令和3年3月にルート再編を実施予定である。また、駅を中心としたまちづくりと連携し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現に向け、令和5年度からの運行形態についても検討していく。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月25日

協議会名:	上里町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	「どこでも、だれでも、気軽に利用できる交通サービス」をモットーに、住民意向を反映させた移動手段を確保するため、「上里町地域公共交通活性化協議会」により地域の合意形成を図りつつ、効果的・効率的な公共交通ネットワークを構築するための継続的な協議を行う。

# 令和2年度 上里町地域公共交通活性化協議会 (埼玉県児玉郡上里町) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

## 地域の公共交通等の現況

当町は、埼玉県の最北端に位置しており、広域交通網である関越自動車道、JR高崎線、上越新幹線、国道17号が町内を横断している。鉄道駅や民間バス路線がカバーしている地域は、JR高崎線神保原駅の1km圏域と県道22号線を運行している路線バスのバス停1km圏域であり、本町の約61%が交通不便地域となっている。自動車運転免許及び自家用車の保有率は90%近くあり、自家用車への依存度が高い傾向にある。このような中、高齢者や障害者等の交通制約者の日常の買い物、通院等の移動手段の確保が課題となっている。

## 交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

令和2年3月には、上里町内の公共交通網の利便性を向上させ、持続可能な地域公共交通を実現させることを目的に「上里町地域公共交通網形成計画」を策定した。本計画に基づき、住民意向を反映させた移動手段の確保を図るため、「上里町地域公共交通活性化協議会」により、地域の合意形成を図りつつ、効果的・効率的な公共交通ネットワーク構築のための継続な協議を行う。

## 交通施策として実施した事業の全体像の概要

平成26年度に策定した「上里町地域公共交通サービス計画」に基づき、平成28年3月より、コミュニティバス「こむぎっち号」を運行しており、同年10月からは、協議会の承認を得て本格運行している。令和元年9月にダイヤ改定を実施し、全ルートにおいて所要時間の短縮を行った。また、北部ルートと南部ルートは運行日を隔日に変更し、1日当たりの便数増加を実現した。令和2年3月に「上里町地域公共交通網形成計画」を策定。令和3年3月には計画に基づき、北部ルートと南部ルートのルート再編を実施する予定。

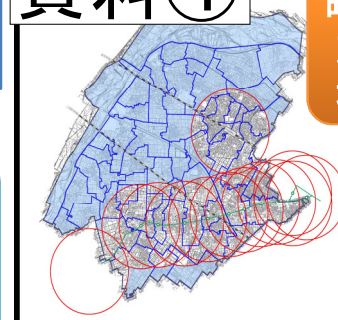
## 補助対象事業の概要

地域内フィーダー系統を確保・維持する取組みとして、平成28年3月よりコミュニティバス「こむぎっち号」を運行し、同年10月からは、協議会の承認を得て本格運行を実施している。毎年度、利用者アンケート等調査結果から分析した改善を実施している。令和元年度は便数の増加や所要時間の短縮による利便性向上を目的としたダイヤ改定を実施をした。令和2年度は、更なる利便性向上策として、計画に基づく、ルートの再編を検討し、令和3年3月にルート再編を実施する予定である。

### 【コミュニティバス「こむぎっち号」】

事業者名:株式会社協同バス  
運行系統:町内全域  
運行日:月曜～土曜(日曜、年末年始運休)  
運行時間帯:8時30分～18時30分  
運行本数:26便/日(月・水・金)、24便/日(火・木・土)  
運行車両:4台  
運賃:1乗車100円(1日乗車券300円)

## 資料④



町の61%が  
交通不便  
地域に指定

面積	29.18 km <sup>2</sup>
人口 (R2.4.1時点)	30,902 人
15歳未満	3,716 人
65歳以上	8,418 人
高齢化率	27.2 %
世帯数	12,922 世帯

## 交通計画の策定年月日

令和2年3月

## 協議会開催状況

- 協議会の開催状況 3回開催
- ◎令和2年度第1回 (令和2年7月3日)
  - ・上里町生活交通確保維持改善計画について
  - ・ルート再編について
- ◎令和2年度第2回 (令和2年10月12日)
  - ・バス停の本移設について
  - ・ルート再編に伴う調整事項について
- ◎令和2年度第3回 (令和3年1月19日)
  - ・事業評価について

## 前回の事業評価結果の反映状況

持続可能な地域公共交通を実現させることを目的に「上里町地域公共交通網形成計画」を策定した。「上里町地域公共交通網形成計画」策定時に実施した町民アンケート及び利用者アンケート調査の結果を分析し、地域ニーズに合った持続可能な公共交通サービスの実現に向け、現状の業務期間後（令和3年4月以後）の運行形態について検討した。

## 定量的な目標・効果

### 【評価指標・目標値】

- ・指標①：1日あたりの利用者数⇒目標値：前年度（令和元年度：54.9人/日）比向上
- ・指標②：満足度⇒目標値：前年度（令和元年度：11%）比向上

### 【当該指標・目標値を設定した理由】

- ・実証運行中（平成28年3月から9月）から本格運行開始（平成28年10月）する際の増加を3人/日程度と予測していた。利用促進の施策を行うことにより、令和2年度の利用者数についても、令和元年度の実績値54.9人/日からの増加を目指す目標とした。

### 【効果】

- ・当該路線を維持することにより、交通制約者の移動手段が確保され、買い物や通院の利便性が向上する。
- ・路線バスと連携することにより、広域的な公共交通ネットワークが構築される。

## 目標・効果の達成状況

【指標①】 実績：42.6人/日

### 【目標を達成できなかった要因(分析)】

- ・令和元年9月にダイヤ改定を実施した為、定着までの半年間は前年よりも利用者数が減になった。令和2年3月からは新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から不要不急の外出の自粛を要請していたこともあり、利用促進の取り組みが十分に実施できなかった。

【指標②】 実績：前年度比向上 令和2年3月実施：52.1%、令和2年8月実施：84.4%

### 【目標を達成できた要因(分析)】

- ・令和元年9月のダイヤ改定後は、北部ルートと南部ルートが増便となったため、利便性は向上した。

### 【効果】

- ・公共交通ネットワークを充実させ、地域住民の移動手段の確保及び交通空白地域の解消に資している。

## アピールポイント

公共交通への転換のハードルを低くし、高齢者の方が公共交通の利用を意識するきっかけを提供するため、交通安全講習を受講した75歳以上の方へ「こむぎっちょ号高齢者無料パス」を交付した。

また、公共交通網の利便性を向上させ、持続可能な地域公共交通を実現させるため、更なる利便性向上のための取組みとして、定時定路線の更なる可能性を協議会で検討した。

令和3年3月から北部ルートと南部ルートのルート再編を実施する予定である。

## 今後の改善点

令和2年度に減少した利用者数の回復に向け、利用促進を積極的に実施していく。ルート再編も予定しているため、「わたしの時刻表」制度をフル活用し、利用者の満足度が更に向上するよう取り組んでいく。

また、上里町地域公共交通網形成計画に基づき、定時定路線の総括的分析を実施していく。その上で駅を中心としたまちづくりと連携し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現に向け令和5年度からの運行形態について、協議会で検討していく。

# 資料⑤

## 事業期間中の運行実績（令和元年10月1日～令和2年9月30日）

日付	運行日数（日）			ルート別乗車人数（人）			合計 （人）	運賃収入 （円）
	中央	北部	南部	中央	北部	南部		
令和元年10月	26	13	13	1,166	123	116	1,405	111,800
令和元年11月	26	13	13	1,061	104	99	1,264	95,800
令和元年12月	24	12	12	1,001	103	96	1,200	97,200
令和2年1月	24	12	12	932	123	75	1,130	97,800
令和2年2月	25	12	13	1,033	107	91	1,231	98,500
令和2年3月	26	13	13	875	94	69	1,038	81,900
令和2年4月	25	13	12	583	40	57	680	48,800
令和2年5月	26	13	13	601	36	51	688	52,600
令和2年6月	26	13	13	951	78	80	1,109	94,600
令和2年7月	27	14	13	1,041	78	81	1,200	98,700
令和2年8月	26	13	13	1,010	49	89	1,148	93,700
令和2年9月	26	13	13	851	72	64	987	78,800
合 計	307	154	153	11,105	1,007	968	13,080	1,050,200

期間中の1ヶ月平均乗車数（全ルート）	1,090人
期間中の1日平均乗車数（中央）	36.2人
期間中の1日平均乗車数（北部）	6.5人
期間中の1日平均乗車数（南部）	6.3人
期間中の1日平均乗車数（全ルート）	42.6人
期間中の1ヶ月の平均運賃	87,516円

※北部の運行日のみで計算

※南部の運行日のみで計算

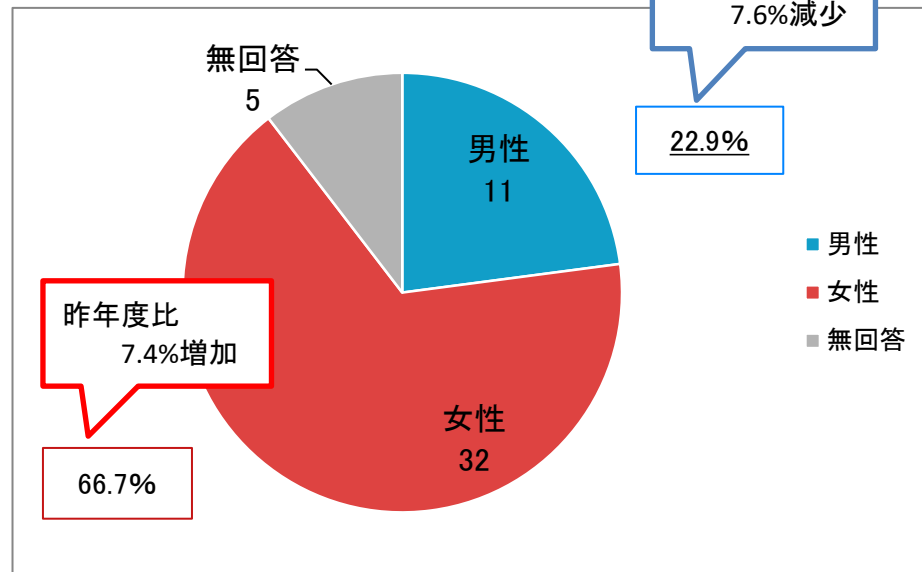
「こむぎっち号」利用者アンケート集計結果 令和2年3月実施分

ルート別回答数

中央ルート	31人	【64.6%】
北部ルート	8人	【16.7%】
南部ルート	1人	【2.1%】
無回答その他	8人	【16.7%】

利用者の属性

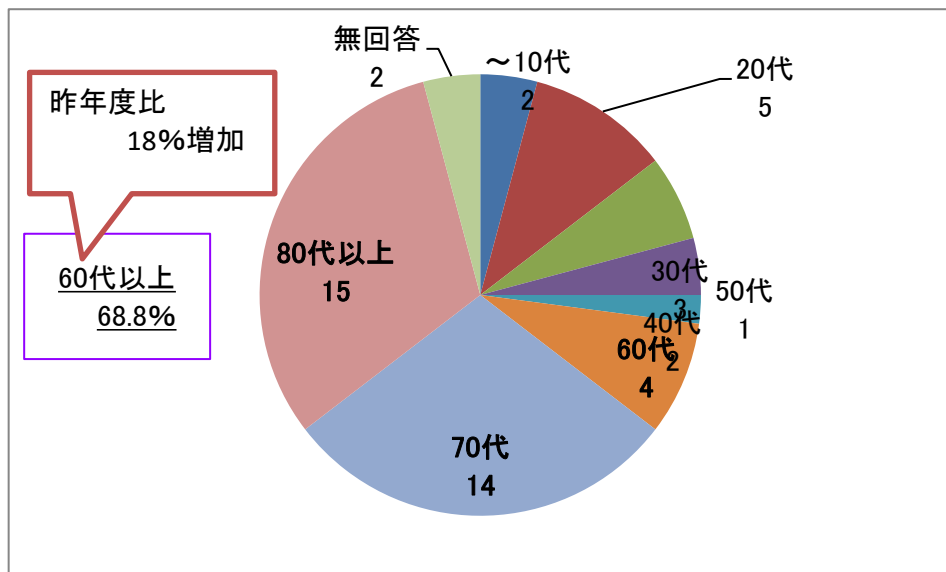
性別



・平成30年度と比較すると、女性の割合が減少、男性の割合が微増となっている

平成30年度	男性: 30.5%
	女性: 59.3%

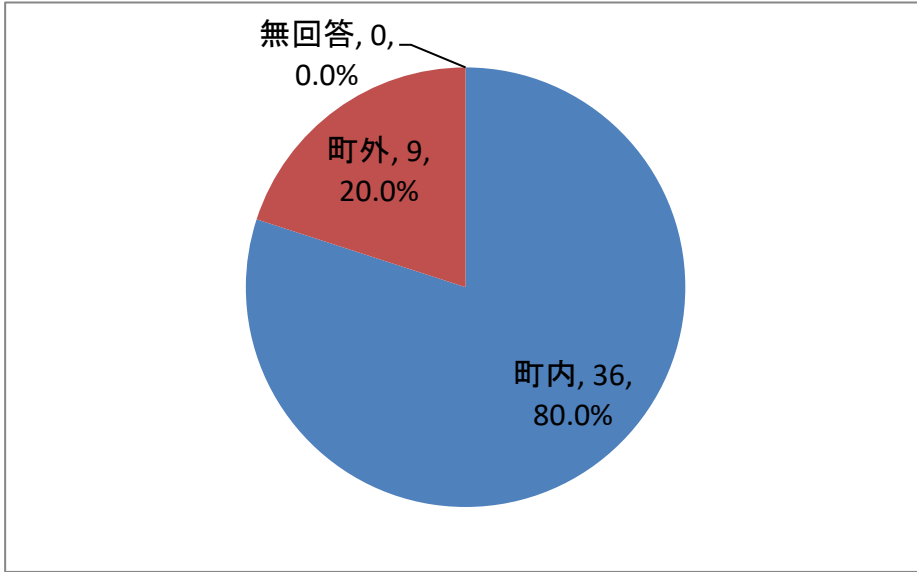
年齢



・平成30年度と比較して、60代以上の割合が微増

平成30年度	60代以上: 50.8%
--------	--------------

住所地(町内・町外の別)



- 平成30年度結果とほぼ同じ(町内約7割、町外約3割)

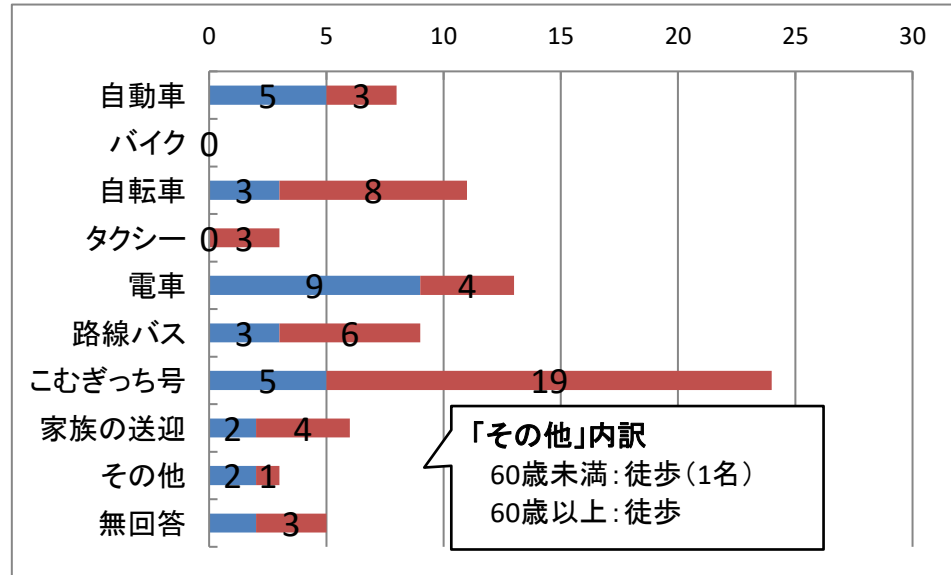
利用の多い停留所(乗車)

- 1位 神保原駅(乗9人)  
※南口・北口不明含む
- 2位 イオンタウン(乗6人)  
ユニクス
- 3位 カインズホーム(乗3人)  
西原町

利用の多い停留所(降車)

- 1位 イオンタウン(降13人)
- 2位 ユニクス(降7人)
- 3位 神保原駅(降6人)  
※南口・北口不明含む

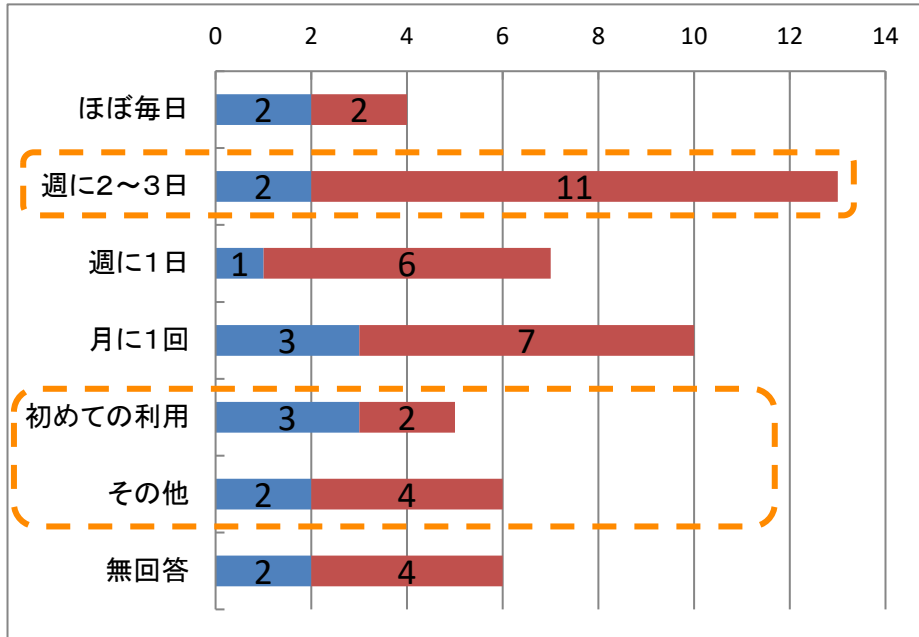
1. 日常の主な交通手段【複数回答あり】 ※赤部分は60歳以上



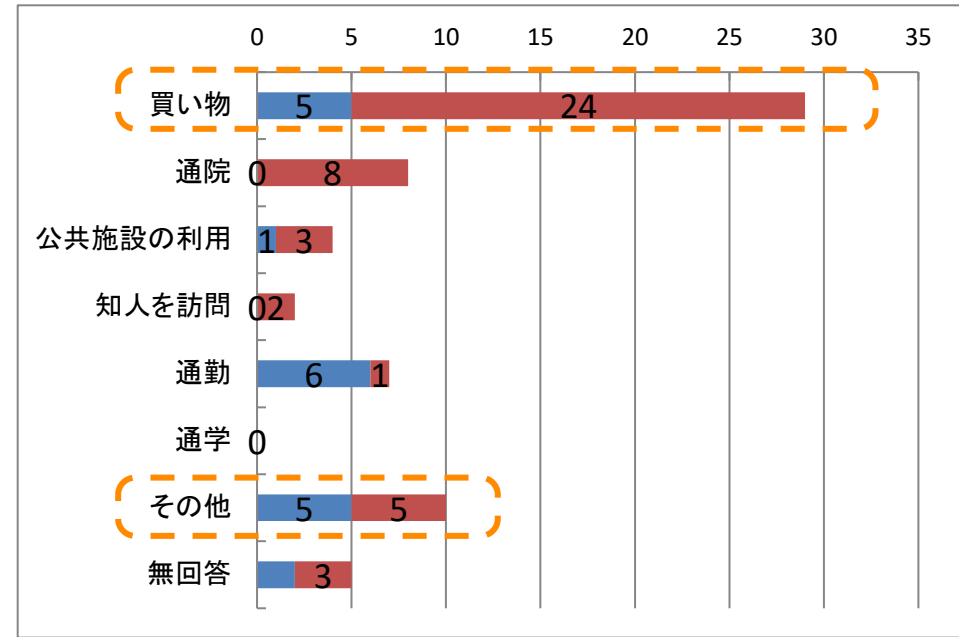
- 主な交通手段で「こむぎっち号」と答えた方の79.2%が60歳以上
- 電車を利用する若い世代の利用も増加
- 『こむぎっち号』が主な交通手段の60歳以上のうち…  
他の移動手段を選択していない人は7人【47.3%】 ※平成30年度: 41.2%

## 2. 「こむぎっち号」の利用状況

②「こむぎっち号」の利用頻度 ※赤色は60歳以上



③主な利用目的【複数回答あり】 ※赤色は60歳以上



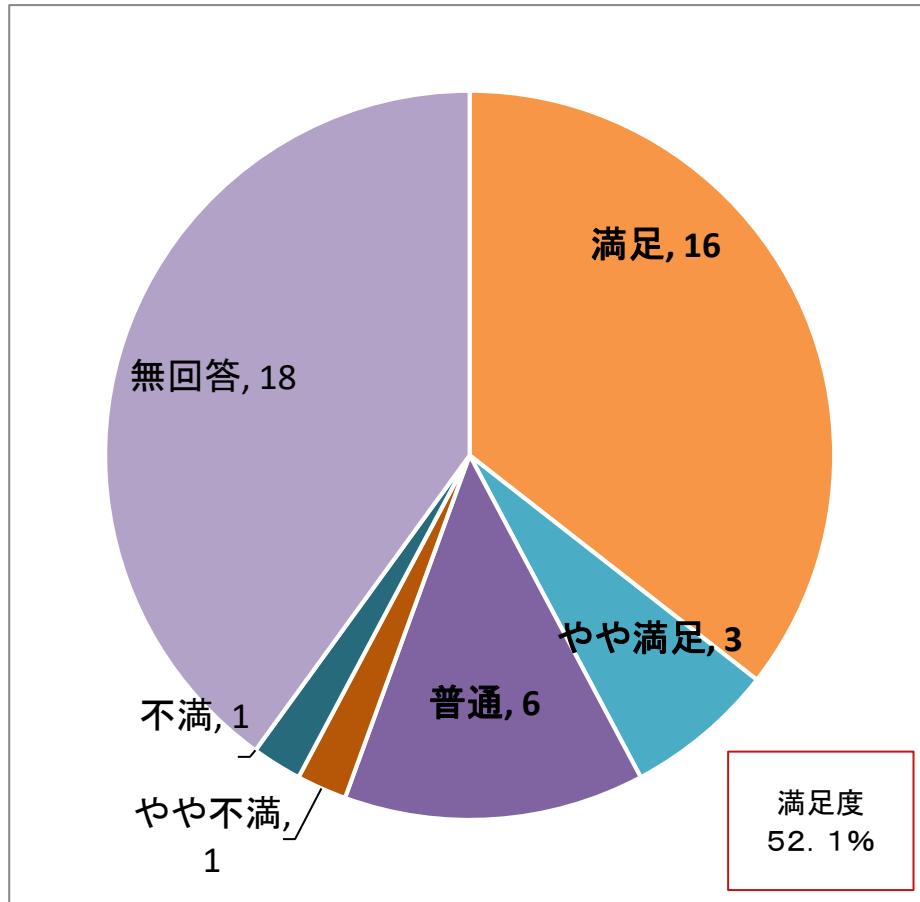
- ・ 『ほぼ毎日』『週に2~3日』利用するヘビーユーザーは60歳以上の方が76
- ・ 『初めての利用』と回答した5人のうち2人(40%)は町外の利用者
- ・ 『ほぼ毎日』『週2~3日』利用の利用目的は『買い物』が52.9%、次に『通院』と『通勤』が17.6%だった。

- ・ 「こむぎっち号」利用者の利用目的は『買い物』が60.4%と最も多く、次いで『その他』(20.8%)だった。
- ・ 『その他』の内容  
カラオケ等の娯楽/仕事



### 3. 「こむぎっち号」に対する満足度

総合的満足度



満足度の積算

$$(\text{「満足」} + \text{「やや満足」} + \text{「普通」}) \div \text{全体数} \times 100$$

・『ほぼ毎日利用』『週2~3回利用』と回答した方の満足度

1. 満足	16
2. やや満足	3
3. 普通	6
4. やや不満	1
5. 不満	1
無回答	18

21

満足度  
52.1%

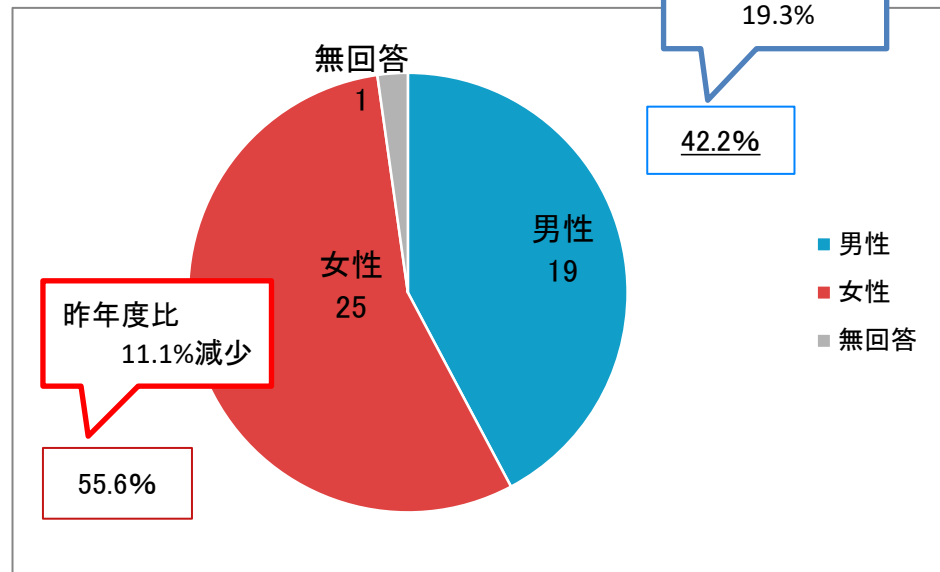
満足度  
52.1%

# 「こむぎっち号」利用者アンケート集計結果 令和2年8月実施分

## ルート別回答数

中央ルート	40 人	【 88.9% 】
北部ルート	3 人	【 6.7% 】
南部ルート	1 人	【 2.2% 】
無回答その他	1 人	【 2.2% 】

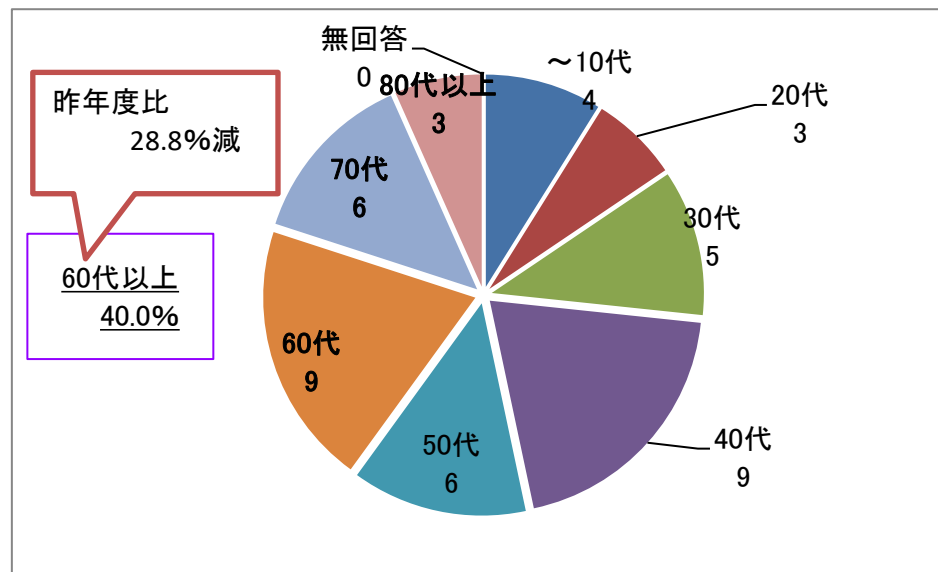
## 利用者の属性 性別



・令和元年度と比較すると、女性の割合が減少、男性の割合が微増となっている

令和元年度	男性: 22.9%
	女性: 66.7%

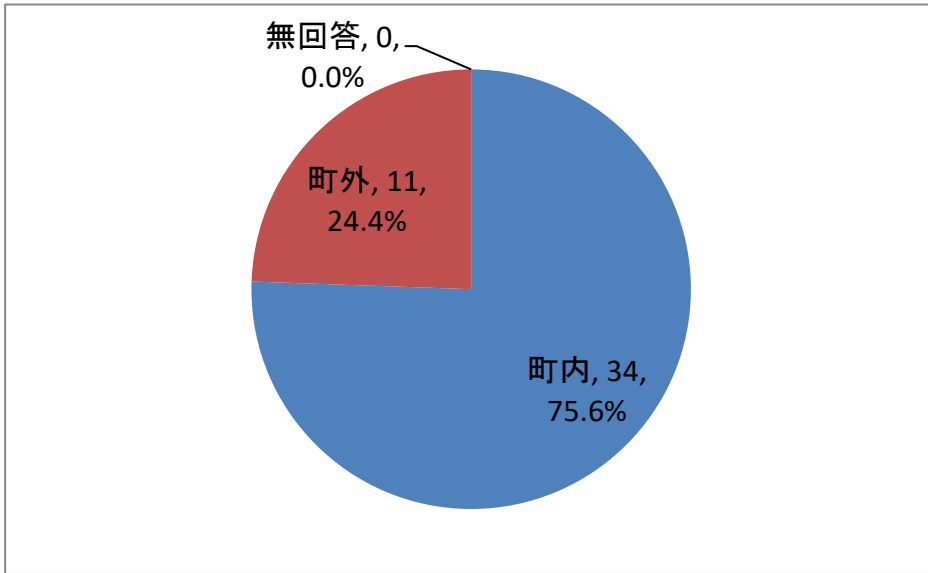
## 年齢



・令和元年度と比較して、60代以上の割合が減少

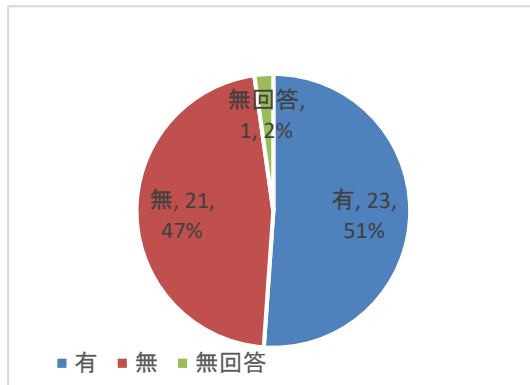
令和元年度	60代以上: 68.8%
-------	--------------

住所地(町内・町外の別)



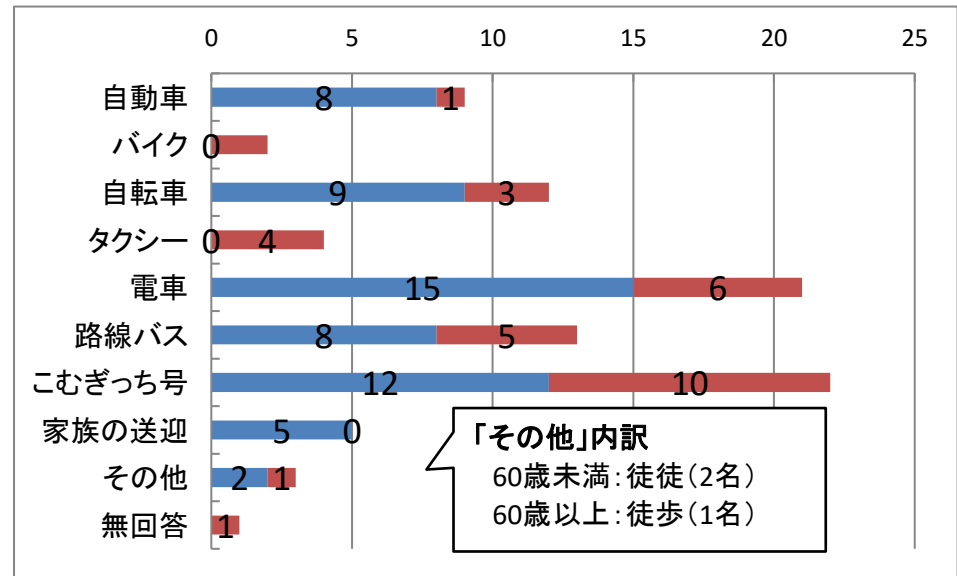
- ・ 令和元年度結果とほぼ同じ(町内約8割、町外約2割)

運転免許証の有無



運転免許証の有無はほぼ同数  
 移動手段が確保できる方の利用もあることがわかる

1. 日常の主な交通手段【複数回答あり】 ※赤部分は60歳以上



- ・ 主な交通手段で「こむぎっち号」を利用している方がもっとも多い
- ・ 若い世代も「こむぎっち号」を利用している
- ・ 電車を利用する若い世代の利用も増加

## 2. 「こむぎっち号」の利用状況

### ① 利用するバス停

#### 利用の多い停留所(乗車)

1位 神保原駅(乗11人)

2位 ユニクス(乗6人)

3位 ベルク七本木店(乗4人)

#### 利用の多い停留所(降車)

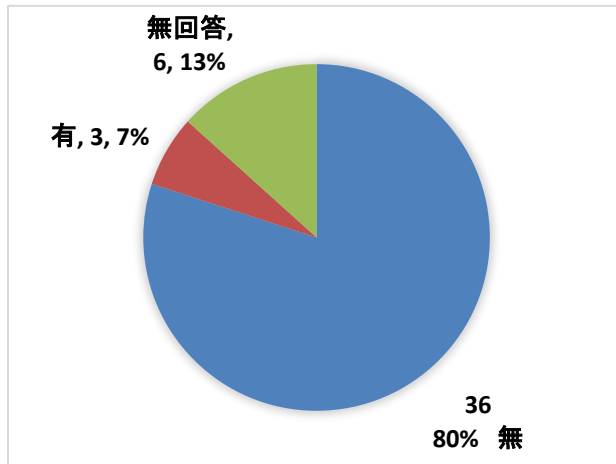
1位 イオンタウン(降13人)

2位 神保原駅(降7人)

3位 ユニクス(降4人)

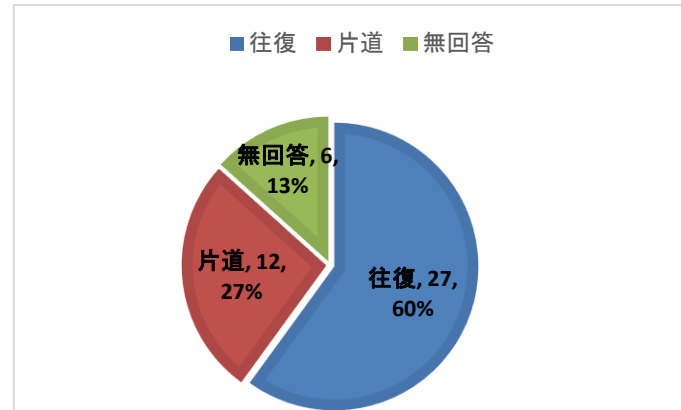
※神保原駅については北南口両方

### ② バス乗車前(または降車後)の乗り継ぎの有無



大半(80%)の人が乗り継ぎせずに目的地に行っている

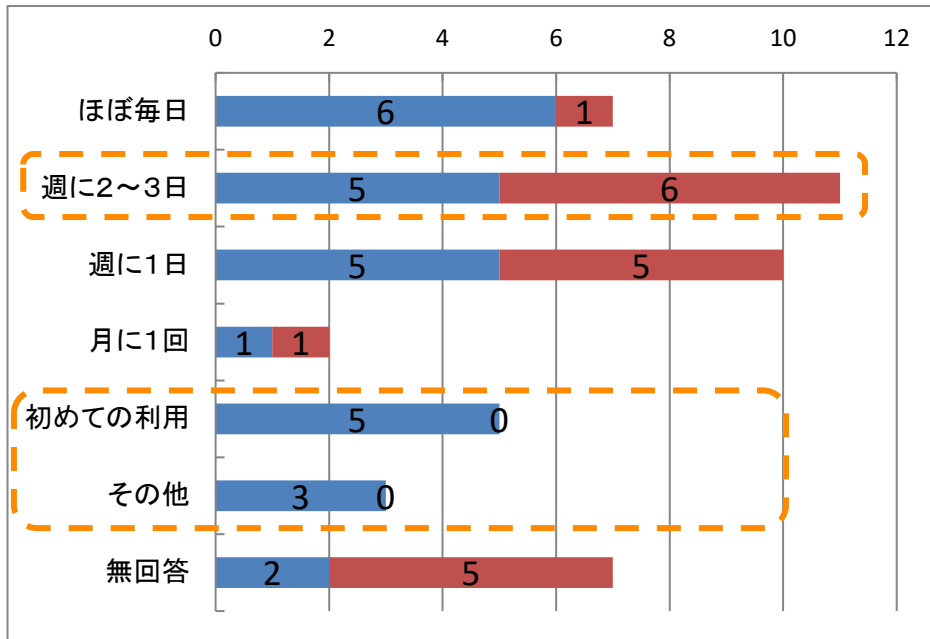
### ③ バスは往復で利用しましたか



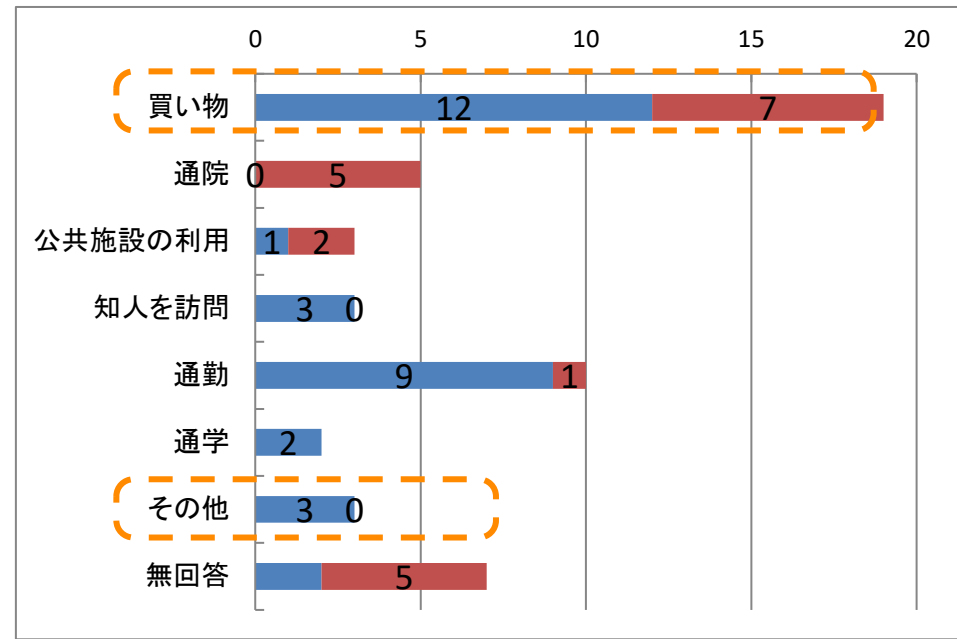
片道の利用者が3割いる

片道利用のバス以外の移動手段は 自動車7名、徒歩4名、その他1名

②「こむぎっち号」の利用頻度 ※赤色は60歳以上



③主な利用目的【複数回答あり】 ※赤色は60歳以上

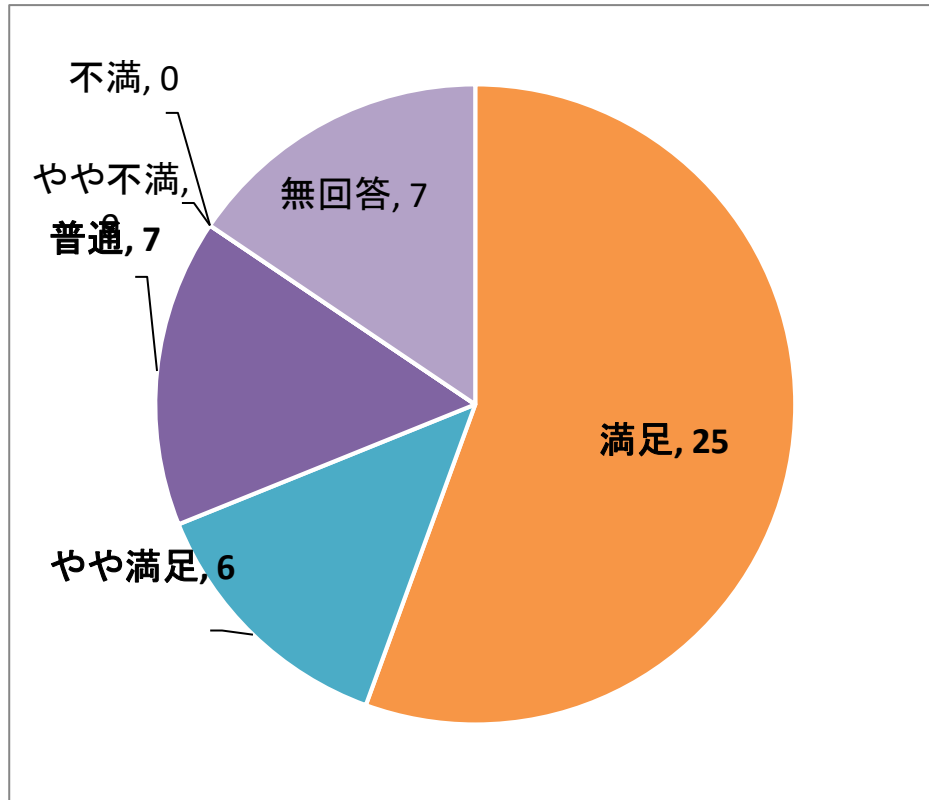


- ・ 『ほぼ毎日』『週に2~3日』利用するヘビーユーザーは若年層の方が多い
- ・ 『初めての利用』と回答した5人のうち3人(60%)は町外の利用者
- ・ 『ほぼ毎日』『週2~3日』利用の利用目的は『買い物』が10人と最も多く、次に『通院』と『通勤』が9人だった。

- ・ 「こむぎっち号」利用者の利用目的は『買い物』が42.2%と最も多く、次いで『通勤』(22.4%)だった。
- ・ 『その他』の内容  
習い事／映画

### 3. 「こむぎっち号」に対する満足度

総合的満足度



#### 満足度の積算

$$(\text{「満足」} + \text{「やや満足」} + \text{「普通」}) \div \text{全体数} \times 100$$

・『ほぼ毎日利用』『週2～3回利用』と回答した方の満足度

1. 満足	25	} 満足度 84.4%
2. やや満足	6	
3. 普通	7	
4. やや不満	0	
5. 不満	0	
無回答	7	

令和元年度と比較すると満足度が32.3%増加

(令和元年度結果)

1. 満足	16	} 満足度 52.10%
2. やや満足	3	
3. 普通	6	
4. やや不満	1	
5. 不満	1	
無回答	21	

生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画を含む）

令和元年5月20日

上里町地域公共交通活性化協議会

生活交通確保維持改善計画の名称
上里町生活交通確保維持改善計画
1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性
<p>上里町は、埼玉県の最北端に位置しており、北西部には神流川が流れ、群馬県との県境を成し、町内全域が平坦な地形を呈しています。面積は29.18km<sup>2</sup>、人口は31,017人（平成31年3月31日現在）となっています。広域交通網である関越自動車、JR高崎線、上越新幹線、国道17号が町内を横断しており、本町の広域交通網における交通結節施設として、JR高崎線神保原駅が町内にあります。</p> <p>鉄道駅やバス路線がカバーしている地域は、JR高崎線神保原駅の1km圏域と南部の県道22号線で運行しているバス停の1km圏域であり、本町の約61%の面積がいわゆる交通空白地域となっています。</p> <p>平成15年より運行をしてきた無償の町内巡回バスは、交通空白地域をカバーしているものの、運行本数が1日4本程度と少ないため、運行距離の長距離化につながっていました。また、町内の人口は中心部を除き、薄く広い分布となっており、町全体が低密度な公共交通網となっています。さらに、自動車免許の保有、自家用車両の保有は90%近くあり、自家用車への依存度が高い傾向にあります。しかし、これから高齢化が更に進行していく中で、アンケート結果からも70%以上の方が将来の移動手段に関して不安を抱いています。このような中で、高齢者や障害者などの交通弱者の日常の買い物、通院などの移動手段の確保が課題となっています。</p> <p>また、平成26年度に地域の公共交通が抱える課題の解決を図っていくために「地域公共交通サービス計画」を策定しました。策定にあたっては、住民アンケート調査、利用実態調査および高齢者アンケートを行った後、住民代表によるワークショップを開催し、住民の意向を反映させ、より良い地域の公共交通ネットワークを構築するために、利用者の立場に立った計画になるよう努めました。</p> <p>平成27年度には「上里町地域公共交通活性化協議会」を立ち上げ、地域の合意形成を図りつつ、効果的・効率的な公共交通ネットワークを構築し、利便性や利用率の向上を図っていくために本計画を策定しました。そして、平成28年3月1日より上里町コミュニティバスの実証運行を開始し、同年10月1日より本格運行を開始しています。今後も地域公共交通確保維持事業により、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要であります。</p>

## 2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

### (1) 事業の目標

上里町では、コミュニティバスの実証運行から本格運行へと移行し、運行開始から平成31年3月で3年が経過しました。町内巡回バスからコミュニティバスへの移行にあたり、定量的な目標を、日平均利用者数および利用者満足度とし、具体的に下表のように決めました。

年 度	日平均利用者	利用者満足度
参考 平成28年3月～9月 (実証運行中)	38人/日 (実績値)	アンケート実施
参考 平成29年度	50人/日 (実績値)	アンケート実施
参考 平成30年度	51.7人/日 (実績値)	アンケート実施
令和元年度	前年度対比増加	前年度対比満足度向上
令和2年度	前年度対比増加	前年度対比満足度向上
令和3年度	前年度対比増加	前年度対比満足度向上
令和4年度	前年度対比増加	前年度対比満足度向上

### (2) 事業の効果

- ・ 交通空白地域の解消
- ・ 高齢者・障害者など交通弱者の生活圏内における移動手段の確保
- ・ 外出機会の拡大が図られることによる健康増進、交流の活性化
- ・ 交通ネットワークの連携により、効率的な運行体系が図られる
- ・ 大型商業施設を結節点に設定することにより、消費機械の拡大が期待できる
- ・ 公共交通の充実によるマイカー利用の抑制（交通事故防止）

令和元年度の実績値について  
令和元年度実績値の提出は令和2年1月に実施しているため、この計画を作成しました令和元年5月20日時点では未記入となります。

参考：令和元年度

日平均利用者：54.9人/日

利用者満足度：アンケートの結果より11%



<p>3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体</p>
<p>○上里町が実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻表の見方や乗り継ぎが分からない方のために『わたしの時刻表』作成</li> <li>・利用者の満足度を調査し、利便性向上を図るため『利用者アンケート』を実施</li> <li>・埼玉県が取り組んでいる『バスまちスポット』への登録施設の拡充</li> <li>・利用者促進キャンペーンを実施（不定期）</li> <li>・支線ルート（北部ルートと南部ルート）の便数増加のため、ダイヤ改正の実施を検討</li> </ul> <p>○運行予定者（株式会社協同バス）が実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用実態を把握するためOD調査及び支線停留所利用状況調査を実施</li> </ul>
<p>4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行システムの概要及び運行予定者</p>
<p>別添の表1のとおり。</p>
<p>5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者</p>
<p>上里町</p>
<p>6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称</p>
<p>株式会社協同バス</p>
<p>7. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法 <b>【活性化法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】</b></p>
<p>※該当なし</p>
<p>8. 別表1の補助対象事業の基準二ただし書に基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めたシステムの概要 <b>【地域間幹線システムのみ】</b></p>
<p>※該当なし</p>
<p>9. 別表1の補助対象事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧 <b>【地域間幹線システムのみ】</b></p>
<p>※該当なし</p>
<p>10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項</p>

<b>【地域間幹線系統のみ】</b>
※該当なし
<b>11. 外客来訪促進計画との整合性 【外客来訪促進計画が策定されている場合のみ】</b>
※該当なし
<b>12. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 【地域内フィーダー系統のみ】</b>
別添の表5のとおり。
<b>13. 車両の取得に係る目的・必要性 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
<b>14. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果
※該当なし
<b>15. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する費用の負担者【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
<b>16. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） 【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし

## 17. 協議会の開催状況と主な議論

平成30年度

第1回 上里町地域公共交通活性化協議会 平成30年6月19日(火)

- ・平成30年度上里町地域公共交通活性化協議会事業計画(案)
- ・平成30年度上里町地域公共交通活性化協議会歳入歳出予算(案)
- ・上里町生活交通確保維持改善計画【平成31～33年度分】(案)
- ・「こむぎっち号」の自由降車について(案)
- ・今後の運行形態の検討について

第2回 上里町地域公共交通活性化協議会 平成31年1月18日(金)

- ・平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について
- ・今後の上里町の公共交通について

令和元年度

第1回 上里町地域公共交通活性化協議会 令和元年5月20日(月)

- ・令和元年度上里町地域公共交通活性化協議会事業計画(案)
- ・令和元年度上里町地域公共交通活性化協議会歳入歳出予算(案)
- ・上里町生活交通確保維持改善計画【令和2～4年度分】(案)
- ・こむぎっち号のダイヤ改正等について
- ・上里町公共交通網形成計画の策定について

上記のとおり、利用者アンケート及び利用しない方アンケートをそれぞれ実施しました。利用者アンケートに関しては運行時間や運行便数などについて満足度の減少が見られました。利用しない方アンケートでは、「家の近くにバス停がない」、「バスの乗り方がわからない」などの意見があったため、更なる利便性の向上につながるような計画としました。

## 18. 利用者等の意見の反映状況

(1) 「こむぎっち号」利用者アンケート

対象者 : こむぎっち号利用者

実施期間 : 平成30年8月27日から平成30年9月15日

回収数 : 中央ルート 42人(71.2%)  
北部ルート 8人(13.6%)  
南部ルート 4人(6.8%)  
無回答 5人(8.5%)

(2) 「町内路線バスに関するアンケート」(利用しない方アンケート)

対象者 : 「こむぎっち号」を1度も利用したことがない方  
利用したことはあるが、その後利用していない方

実施期間 : 平成30年2月から平成30年5月

回答数 : 男性 65人  
女性 158人  
無回答 9人

上記のとおり、利用者アンケート及び利用しない方アンケートをそれぞれ実施しました。利用者アンケートに関しては、満足度は上昇しましたが、運行便数について不満と回答する方が多く見られました。利用しない方アンケートでは、こむぎっち号の改善を求める意見が多く見られたため、更なる利便性の向上につながるような計画としました。

19. 協議会メンバーの構成員	
関係都道府県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉県本庄県土整備事務所道路部</li> <li>・ 埼玉県企画財政部交通政策課</li> </ul>
関係市区町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上里町まち整備課</li> <li>・ 上里町高齢者いきいき課</li> </ul>
交通事業者・交通施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝日バス株式会社</li> <li>・ 株式会社協同バス</li> <li>・ 一般社団法人埼玉県バス協会</li> <li>・ 一般社団法人埼玉県乗用自動車協会</li> <li>・ 本庄地区タクシー協議会</li> <li>・ 埼玉県本庄警察署交通課</li> </ul>
地方運輸局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国土交通省関東運輸局埼玉運輸支局</li> </ul>
その他協議会が必要と認める者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上里町区長会</li> <li>・ 上里町老人クラブ連合会</li> <li>・ 上里町身体障害者福祉会</li> <li>・ 株式会社協同バス労働組合</li> <li>・ 高崎経済大学 教授</li> </ul>